

鹿児島・奄美地域で
生き物の未知の姿を
知る楽しさを満喫

宮本旬子さんは、鹿児島大学大学院理工学研究科地球環境科学専攻の准教授。興味を持ってどこへでも…と日本や世界の各地へ足を運び、訪れていない地域の方が少ないほどだ。フィールドワークのために語学と体の鍛錬を重ね、現在も定期的な運動を欠かさない。「体育会系植物学者」とも呼ばれるゆえんだ。国立公園の指定や世界自然遺産の登録を目指す奄美地域の調査にも関わり、固有植物や絶滅に瀕している植物などの状況を研究している宮本さんに、生物学の面白さや鹿児島の魅力について伺った。

鹿児島大学大学院理工学研究科 准教授

みやもと じゅんこ
宮本 旬子さん

Junko Miyamoto

生物学に興味を持った きっかけは？

家庭環境が大きく影響したのではないだろうか。両親は出版社に勤めており、自宅には辞書や事典がたくさんありました。また、母方の先祖は代々藩医だったそうで、祖父母は庭で栽培していた葉草の名前を教えてくださいました。そうした環境の中で、物心ついた頃から家族と登山やスキーに行っては、山で見た生き物の名前を图鉴で調べて遊ぶ子どもでした。

なぜ地球上にはいろいろな生き物がいるのか。当時から生物の多様性に不思議さを感じていました。中学校の理科の授業で観察した染色体と、本で読んだDNAの関係に興味を持ち、大学で生物学に進みました。そこで「系統学(生物の進化の道筋を探る研究)」という分野を知り、今に至ります。



大学院時代、当時研究していた植物の冬季の状態を確認するために登った八ヶ岳(長野県)にて。(左が宮本さん)

学生時代から、研究のため世界各地へ出かけました。フィールド(野外)での疑問をラボ(実験室)に持ち込んで解析し、さらにラボでの疑問をフィールドに持ち出して検証する。このスタイルは学生時代から変わりません。

現在は奄美地域を中心に研究を行っています。研究課題は「野生植物の進化や絶滅のメカニズム」。「奄美・琉球」は世界自然遺産の登録に向けて動いています。私も自生植物調査に関わっており、個人研究として奄美群島のアダマンや固有種であるウケユリについてDNAの分析を進めています。奄美群島については具体的な調査研究事例が少ないので、私の研究が少しでも役に立てばうれしいですね。

生物学の面白さを 教えてください

一言で言えば、思いがけない発見があるということ。調査や研究に取りかかる前には、これまでの知識に基づいて結果を予想します。でも実際に調査や研究を進めていくと、「あれ？」と想定を崩されることもあります。例えば、雄しべの花粉が雌しべに付かなくても、仲間を増やせる仕組みを持つていたりする。そのような生物の隠し技を発見すると、次々に疑問がわいてきて興味が尽きません。

それにフィールドでの動植物との出会いにも素晴らしいものがあります。植物は研究対象なので、どちらかと言えば冷静に客観的な視点で見るとは、動物は別。植物の観察中、野生動物が私に近付いてくることも少なくありません。間近まで来て私に気付けて驚いたり、逆に私を観察していたりします。

野外活動で一番印象に残っているのは、カナダのバンフ国立公園を訪れたとき、シンリンオオカミの群れに囲まれたことですね。群れを率いるリーダーが本当にすてきだったんです。襲われることはありませんでした。怖さより、その美しさに圧倒されました。

宮本さんが感じる 鹿児島の魅力は？

私は東京出身ですが、千葉大学大学院を卒業後、鹿児島大学理学部生物学の助手に採用されて鹿児島に来了ました。当初はアメリカの大学の研究室で数カ月間学んだり、海外調査にも積極的に参加していましたが、准教授になった平成19年からは研究地域を鹿児島中心に変更しました。

鹿児島には希少な野生動植物が多いのですが、現状が分からないケースも多いことに驚いたからです。現在研究しているウケユリもそうでした。日

本の植物は研究し尽くされたかと思えますが、身近な植物にもまだ研究の余地があります。例えば、アダマンには遺伝的に違ういくつかのグループがあり、必ずしも1種だとは言いきれません。

鹿児島は自然環境や生き物のルーツは、非常にバラエティーに富んでいます。県内には落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、亜熱帯多雨林があり、世界規模の生物分布の境界線もあります。このような地域はほかにあまりありません。北方系と南方系の生き物が隣り合って住み、他地域で全滅した種類が生き残っている。私の仕事の一つは地域の自然環境の特色を科学的に示すことです。鹿児島は面白い生き物が多すぎて、一度の人生ですべてを見るには時間が足りないかもしれませんね(笑)。



平成9年、フィリピンの国際稲研究所に派遣され、現地の研究者たちに染色体上で遺伝子の位置を可視化する実験技術を指導した。(中央が宮本さん)